

<学会トレーニング（血栓除去デバイス）>

●問題 1

深部静脈血栓症の血栓除去デバイスの適応基準で誤っているものを、一つ選択してください

- a. 腸骨型深部静脈血栓症
- b. 腸骨、膝窩型深部静脈血栓症
- c. 大腿、膝窩型深部静脈血栓症
- d. 腸骨、大腿型深部静脈血栓症
- e. 腸骨、大腿、膝窩、下腿型深部静脈血栓症

●問題 2

深部静脈血栓症の後遺症である静脈血栓後症候群について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 再発を繰り返す静脈性潰瘍の原因になる
- b. 深部静脈血栓症の再発で静脈血栓後症候群発症が多くなる
- c. 初期の抗凝固療法の質が静脈血栓後症候群の発症率に関連する
- d. 初期症状の改善は静脈血栓後症候群の発症率低下させる
- e. 弾性ストッキング、弾性包帯などの圧迫療法が基礎治療として行われていない場合でも、潰瘍など重症例では、早期に血管内治療や外科治療など侵襲的治療で積極的に治療する

●問題 3

●深部静脈血栓症の血栓除去デバイスの治療で期待される結果で正しい組み合わせを、選択してください

- (1)肺塞栓症の治療と悪化予防
- (2)重症深部静脈血栓症の症状の改善
- (3)動脈虚血を伴う深部静脈血栓症の救肢
- (4)抗凝固療法使用期間の短縮による出血合併症の防止
- (5)血栓後症候群（深部静脈血栓症の後遺症）の発症率低下

- a. (1)(2)(3)    b. (1)(2)(4)    c. (2)(4)(5)    d. (2)(3)(5)    e. (3)(4)(5)

●問題4

●PMS でも使用予定の静脈疾患の評価指標について誤っているものを一つ選択してください。

- a. CEAP 分類は静脈疾患の臨床像を記載する指標である
- b. rVCSS(revised Venous Clinical Severity Score)は静脈疾患の重症度を示す指標である
- c. Villalta scale は各項目 0－3 点で、合計点数 15 点以上が重症の静脈血栓後症候群の診断である。
- d. Villalta scale は自覚症状と臨床所見の組み合わせで静脈血栓後症候群を診断し重症度を評価する指標である
- e. rVCSS pain score 3は静脈疾患が原因で “毎日痛みまたは不快感を感じ、やや日常生活の支障になるが、著しい妨げにはならない状態” であり、静脈血栓除去デバイスの適応になりうる。

●問題5

深部静脈血栓症の血栓除去デバイスの適応基準で誤っているものを、一つ選択してください

- a. 片側性深部静脈血栓症
- b. 動脈虚血を伴う有痛性青股腫
- c. 発症 1 週間以内の深部静脈血栓症
- d. 抗凝固療法施行前の深部静脈血栓症
- e. 日常生活を著しく妨げる深部静脈血栓症 (VCSS pain score 3)

●問題6

●静脈性下肢潰瘍について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 静脈性下肢潰瘍では早急に植皮を検討すべきである。
- b. 静脈性下肢潰瘍の基本となる治療は生活指導（下肢挙上、減量、運動）と圧迫療法である。
- c. 静脈性下肢潰瘍の原因は、表在静脈不全である一次性下肢静脈瘤の方が、静脈血栓後症候群よりも多い。
- d. 静脈性下肢潰瘍の診断には静脈超音波検査、静脈 CT 検査に加えて足関節上腕血圧比（ABI）など動脈評価も必要である。
- e. 圧迫療法を含む保存的治療、及び表在静脈不全に対する治療を行っても無効あるいは再発をきたす症例で腸骨静脈部に高度狭窄・閉塞を認める症例が深部静脈血管内治療の適応である。難治例での、圧迫療法は“静脈圧迫処置” 認定施設などで専門的な加療を受けることが望ましい。

<学会トレーニング（血栓除去デバイス）（回答）>

●問題 1

深部静脈血栓症の血栓除去デバイスの適応基準で誤っているものを、一つ選択してください

- a. 腸骨型深部静脈血栓症
- b. 腸骨、膝窩型深部静脈血栓症
- c. 大腿、膝窩型深部静脈血栓症
- d. 腸骨、大腿型深部静脈血栓症
- e. 腸骨、大腿、膝窩、下腿型深部静脈血栓症

正解 c

大腿、膝窩型深部静脈血栓症

腸骨領域に病変があることが患者条件である。

●問題 2

深部静脈血栓症の後遺症である静脈血栓後症候群について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 再発を繰り返す静脈性潰瘍の原因になる
- b. 深部静脈血栓症の再発で静脈血栓後症候群発症が多くなる
- c. 初期の抗凝固療法の質が静脈血栓後症候群の発症率に関連する
- d. 初期症状の改善は静脈血栓後症候群の発症率低下させる
- e. 弾性ストッキング、弾性包帯などの圧迫療法が基礎治療として行われていない場合でも、潰瘍など重症例では、早期に血管内治療や外科治療など侵襲的治療で積極的に治療する

正解 e

潰瘍など重症例では、弾性ストッキング、包帯などの圧迫療法が基礎治療として行われた後に、血管内治療や外科治療など侵襲的治療を検討する

●問題3

●深部静脈血栓症の血栓除去デバイスの治療で期待される結果で正しい組み合わせを、選択してください

- (1)肺塞栓症の治療と悪化予防
- (2)重症深部静脈血栓症の症状の改善
- (3)動脈虚血を伴う深部静脈血栓症の救肢
- (4)抗凝固療法使用期間の短縮による出血合併症の防止
- (5)血栓後症候群（深部静脈血栓症の後遺症）の発症率低下

a. (1)(2)(3)    b. (1)(2)(4)    c. (2)(4)(5)    d. (2)(3)(5)    e. (3)(4)(5)

正解    d.

1) 現状では、肺塞栓症の治療と悪化予防に対するエビデンスはなく、少ないながらも手技中の肺塞栓症のリスクはあり得る。

4)抗凝固療法使用による出血合併症防止

血栓除去デバイス、静脈ステント使用後もある程度の期間の抗凝固療法は必須である。

●問題4

●PMS でも使用予定の静脈疾患の評価指標について誤っているものを一つ選択してください。

- a. CEAP 分類は静脈疾患の臨床像を記載する指標である
- b. rVCSS(revised Venous Clinical Severity Score)は静脈疾患の重症度を示す指標である
- c. Villalta scale は各項目 0－3 点で、合計点数 15 点以上が重症の静脈血栓後症候群の診断である。
- d. Villalta scale は自覚症状と臨床所見の組み合わせで静脈血栓後症候群を診断し重症度を評価する指標である
- e. rVCSS pain score 3 は静脈疾患が原因で “毎日痛みまたは不快感を感じ、やや日常生活の支障になるが、著しい妨げにはならない状態” であり、静脈血栓除去デバイスの適応になりうる。

正解    e

rVCSS pain score 3 は静脈疾患が原因で “毎日痛みまたは不快感を感じ、日常生活を著しく妨げる状態” である

●問題5

深部静脈血栓症の血栓除去デバイスの適応基準で誤っているものを、一つ選択してください

- a. 片側性深部静脈血栓症
- b. 動脈虚血を伴う有痛性青股腫
- c. 発症1週間以内の深部静脈血栓症
- d. 抗凝固療法施行前の深部静脈血栓症
- e. 日常生活を著しく妨げる深部静脈血栓症（VCSS pain score 3）

正解 d

抗凝固療法施行後の深部静脈血栓症で症状の改善しない症例が適応となる。

●問題6

●静脈性下肢潰瘍について誤っているものを、一つ選択してください

- a. 静脈性下肢潰瘍では早急に植皮を検討すべきである。
- b. 静脈性下肢潰瘍の基本となる治療は生活指導（下肢挙上、減量、運動）と圧迫療法である。
- c. 静脈性下肢潰瘍の原因は、表在静脈不全である一次性下肢静脈瘤の方が、静脈血栓後症候群よりも多い。
- d. 静脈性下肢潰瘍の診断には静脈超音波検査、静脈CT検査に加えて足関節上腕血圧比（ABI）など動脈評価も必要である。
- e. 圧迫療法を含む保存的治療、及び表在静脈不全に対する治療を行っても無効あるいは再発をきたす症例で腸骨静脈部に高度狭窄・閉塞を認める症例が深部静脈血管内治療の適応である。難治例での、圧迫療法は“静脈圧迫処置”認定施設などで専門的な加療を受けることが望ましい。

正解 a

静脈性下肢潰瘍では、生活指導、圧迫療法、表在静脈治療や深部静脈治療を施行後に植皮を検討すべきである。原因治療がされていないと植皮後の潰瘍の再発が多い。